

# 紙相撲新聞

第155回本場所  
四～五日目号

編集・発行  
日本紙相撲協会

# 春翔しか勝たん

## 千代鈴、大神楽1敗で追走 若嶋は鹿富士に敗れ3敗目

【第百五十五回本場所四日～五日目】

1月30日に四日目と五日目を開催。5戦全勝としたのは横綱春ノ翔ただ一人。これを1敗で大関千代鈴、関脇大神楽、平幕の鉄甲、喜乃郷、月山、鳥海波の6力士が追う展開となった。

横綱春ノ翔は四日目に小結出羽翼と対戦。今場所の出羽翼は、初日に横綱若ノ嶋、三日目に新大関千代鈴を押し倒して破って、このど輪に牙えをみせている。このど輪が春ノ翔に通じるか注目されたが、春ノ翔が出で足で



↑ 復調著しい春ノ翔はこれまで対戦成績12連勝の鬼ヶ嶽に相撲を取らせず、今場所土つかずの5連勝。復活優勝に期待がかかる。

↓ 若ノ嶋はこれまで負けたことのない鹿富士に苦杯を喫し、優勝には赤信号の3敗目。今後の巻き返しなるか。



しかし、春ノ翔と2敗とまった勝った1の対戦成績は0勝1敗と対戦は第134回で、鬼ヶ嶽が大関、



春ノ翔○(押し倒し) ●出羽翼

倒して最後は逆のど輪で出羽を一蹴した。

五日目はここまで3勝1敗と先場所の鬼ヶ嶽に続き好調の鬼ヶ嶽に、鬼ヶ嶽は二日目に白閃光に素早い相撲で勝ち、磯ノ海親方も「今場所でも鬼は強いなあ」と言わしめる相撲で存在感を示している。

春ノ翔は前頭の時。それ以来、春ノ翔は鬼ヶ嶽と実に12回対戦して負けたことがないわけで、いくら合い口がないからといってもなかなかあることではない。

対戦は、春ノ翔が鬼ヶ嶽得意ののど輪を許さず、左を差しての寄り切りで勝利し、対鬼ヶ嶽戦13連勝とした。初日からまさかの連敗スタートとなった横綱若ノ嶋は、三日目に大関嵐に勝って片眼が開いたが、四日目に久しぶりの対戦となった鹿富士に敗れて3敗目を喫した。

取組み前に「若ノ嶋には悪いけど、なんか勝つ感じがするんだよな」と鹿賀乃戸親方。錦風親方の前では「錦風さん、四日目の鹿富士は安パイだから大丈夫だよ!」と言っておきながら、思わず本音を口にした鹿賀乃戸親方。

今場所の若ノ嶋はこれまでの出足がなく、相手に差される相撲が見られ本調子とは言えない状況。いや～な空気が漂う中、軍配が返ると鹿富士が左を差す格好に。そのまま正面に寄り進んだが、若ノ嶋が土俵を割るの鹿富士が土俵につくのが同時に取り直して、

若ノ嶋の五日目は関脇白閃光戦。先場所はがっぷり四つで寄り切られるというまさかの相撲で敗れている。「白閃光! 頑張るかやれ!」という磯ノ海親方の独特の声援を背に、白閃光が立合いに押し込まれるも若ノ嶋の体をのど輪で起こすと今度の左を差して西土俵に押し込んだ。

若ノ嶋万事休すと思われたが、白閃光の体が先に土

横綱美空富士は小さくなった体で2勝1敗との対戦。両者が組み合うと美空富士の小ささが余計に強調される。過去の対戦では若巨が勝っているだけにどうかと思われたが、うまかと若巨の右腰に食いついた相撲で寄り切った。しかし、五日目は同門の関脇魁電にめまぐるしい差し出し争いの攻防の末、寄り切られて2敗目を喫した。

新大関千代鈴は三日目に出羽翼に敗れたものの、大関として堂々とした力強い相撲をみせている。四日目は魁電戦。相撲は魁電をまったく寄せつけずに寄り切りで勝って新旧に大関の今の力の差をみせて



千代鈴○(寄り切り) ●烏帽子

しかし、その心配を吹っ飛ばすような速攻相撲で烏帽子岳を寄り切って4勝目をあげた。

今場所カド番で初日から3連敗の大関佐賀ノ海は四日目に白閃光と対戦。このど輪合戦になるかと予想されたが、白閃光が左を差す相



千代鈴○(寄り切り) ●魁電



美空富○(寄り切り) ●若巨



白閃光●(引き落とし) ○若ノ嶋